

令和4年度 東播磨南北道路 事後監視調査結果報告

令和5年12月22日
環境影響評価審査会 総会

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所

目次

- 1. 東播磨南北道路の事業概要
- 2. 環境保全措置に対する対応について
 - 環境保全措置の実施状況
- 3. 事後監視調査結果(工事中)について
 - 事後監視調査項目
 - 調査結果

東播磨南北道路の概要

[参考：一部供用開始]

加古川中央JCT～八幡稻美ランプ区間
(約5.2km)

平成26年3月（暫定2車線）

[参考：一部供用開始]

八幡稻美ランプ～八幡三木ランプ区間
(約2.5km)

令和5年3月（暫定2車線）



写真①
加古川中央JCT
付近



写真②
八幡稻美ランプ付近

東播磨南北道路の概要

役割

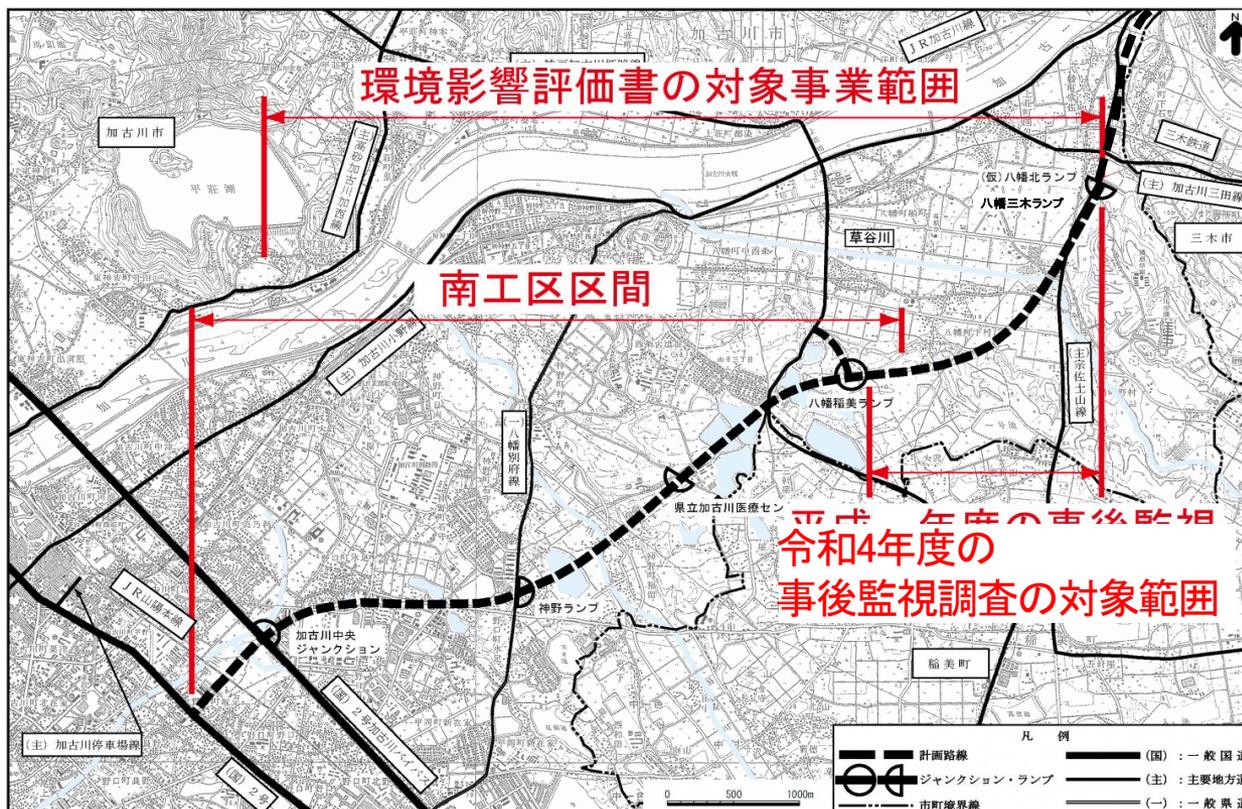
- 東播磨地域と北播磨地域の連携・交流を促進
- 交通混雑を緩和・解消
- 交通の安全性の向上
- 地域の救急医療活動の支援

環境影響評価の概要

- 準備書の審査 : H11.10.27～H12.3.30
- 評価書 : H12.6.7
- 都市計画決定 : H12.6.20
- 評価書縦覧 : H12.6.20～7.4

事後監視調査の経緯

- 第1期事業(南工区)事後監視調査計画書 : H16.3
- 事後監視調査(南工区 約5.2km) : H17年度～H27年度
- 事後監視調査計画書(北工区 約6.9km) : H29.6
- 事後監視調査(北工区アセス区間 約2.5km) : H29.7～



工事の実施状況(令和4年度)



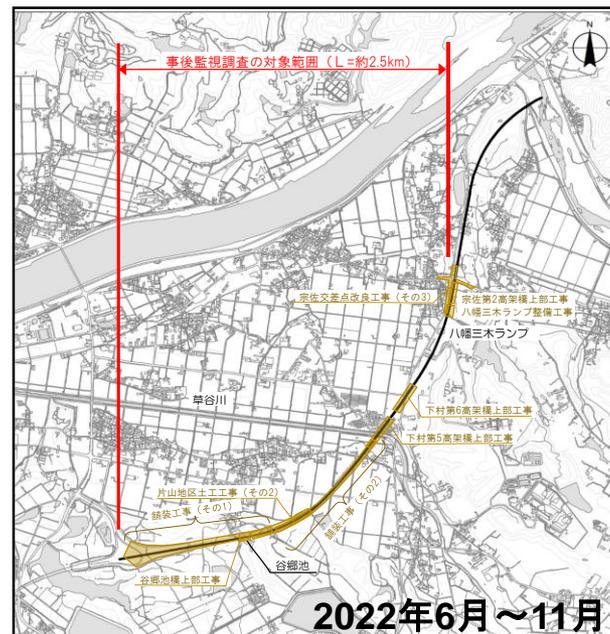
安全施設工事その2



谷郷池橋上部工事



舗装工事その1



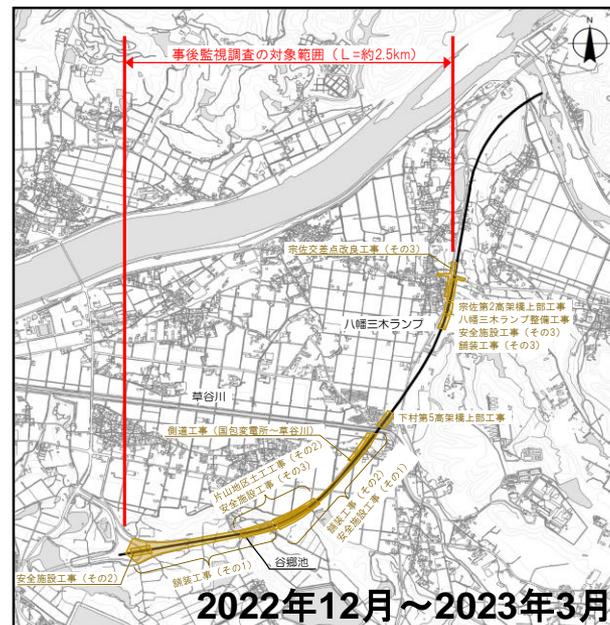
片山地区土工工事
その2



舗装工事その2



下村第5高架橋
上部工事



八幡三木ランプ
整備工事



宗佐交差点改良
工事その3

環境影響評価書に記載の環境保全措置

環境要素	環境保全措置
大気汚染	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事中は、土砂の掘削及び運搬等によりほこり等の発生するおそれのある場所では、シートによる防塵、散水、搬出入車輛の洗浄など適切な措置を講じる。</u>
水質汚濁	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事中は、汚濁負荷の小さい適切な工法を採用するとともに、濁水のため池等への流入防止に努める。</u>
騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事中の騒音については、必要に応じて低騒音型機械を採用する等環境保全対策に十分配慮する。</u> ・ <u>環境保全目標を上回る地点(加古川市神野町福留)があるが、環境保全目標を満足するよう、遮音壁等の環境保全対策を行う。【加古川市神野町福留は南工区である。】</u>
振動	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事中の振動については、必要に応じて低振動工法を採用する等環境保全対策に十分配慮する。</u>
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業計画の中で廃棄物の発生量の抑制に努め、発生した廃棄物については関係機関と協議の上、適切に処理を行う。</u>
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事の実施にあたっては、自然環境の実態を踏まえ、必要に応じ学識経験者の指導のもと、植物の生育環境の保全に努める。また、盛土法面については、速やかな植栽を行う等、適切な処置を講じる。</u> ・ <u>なお、フサタヌキモについては、その貴重性に鑑み生態系の把握に努めるとともに、実行可能な適切な保全措置を講ずるものとする。【フサタヌキモは南工区のみで確認された種である。】</u>
動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事の実施にあたっては、自然環境の実態を踏まえ、動物の生息環境の保全に努める。</u> ・ <u>なお、ダルマガエル、カワネジガイについては、その貴重性に鑑み生態系の把握に努めるとともに、実行可能な適切な保全措置を講ずるものとする。【カワネジガイは南工区のみで確認された種である。】</u>
生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>工事の実施にあたっては、自然環境の実態を踏まえ、必要に応じ学識経験者の指導のもと、動植物の生息・生育環境の保全に努める。また、盛土法面については、速やかな植栽を行う等、適切な処置を講じる。</u>

環境保全措置の実施状況(令和4年度)

- 排出ガス対策型・低騒音型の建設機械を使用
- 散水の実施、防じん用仮囲いの設置
- 濁水流出を削減する仮設舗装の採用、水路への泥溜め設置
- 防音シートの設置、騒音振動の自動監視
- 平成29年度に改変区域外へ移植した希少植物センリョウの生育状況の確認
- ナゴヤダルマガエルの生息地分断を緩和するために採用したスロープ構造の側溝の状況確認
- セトウチサンショウウオの移植地確認、緊急移植

環境保全措置の実施状況(大気汚染・騒音振動)

排出ガス対策型・低騒音型建設機械の使用
散水の実施、防じん用仮囲いの設置



〈バックホウ〉



〈発電機〉



〈クレーン〉



〈ロードローラー〉



〈散水の実施〉



〈防じん用仮囲いの設置〉

環境保全措置の実施状況（水質汚濁・騒音振動）

仮設舗装、泥溜めの設置
防音シートの設置、騒音振動の自動監視



〈防音シートの設置〉



〈騒音振動の自動監視〉

環境保全措置の実施状況(植物)

移植した希少植物センリョウの生育状況の確認

- 平成29年10月に移植したセンリョウの生育状況を令和4年10月に確認し、**移植した個体が順調に生育していることを確認した。**
- 標識テープが付いた15個体を含む74個体を確認した(移植時は30個体)。
- 結実株や次世代と思われる小株も確認されており、順調に活着・繁殖しているものと考えられる。



〈種子を付けた中株〉



〈幼株〉

種の保存の観点から表示しておりません。

環境保全措置の実施状況(動物)

ナゴヤダルマガエルの移動経路確保(過年度施工)

- ナゴヤダルマガエル確認地区で設置されたスロープ構造の側溝において、カエル類の利用状況及び利用環境としての適正を確認した。
- スロープ構造の側溝内でヌマガエルの利用を確認、側溝付近の水田等でナゴヤダルマガエルやトノサマガエルを確認した。
- 調査は踏査による確認で、6月及び7月が約30分、10月が約1時間。
- 側溝から脱出できずに斃死した両生類は確認されなかった。
- 側溝内の環境は、水生植物ガマや草本類の生育、枯草の堆積が広くみられ、両生類の隠れ家として機能していると考えられる。



〈スロープ側溝内のヌマガエル〉



〈スロープ側溝内でガマ生育〉



〈スロープ側溝の周辺環境〉

環境保全措置の実施状況(動物)

セトウチサンショウウオの緊急移植【対象区域外】

- 令和5年2月、工事現場(宗佐交差点～美囊川区間)周辺の一時的な水たまりで、貴重種セトウチサンショウウオの卵囊を確認した。水が干上がる可能性等が危惧されたため、緊急的に移植作業を実施した。
- 令和5年3月、両生類調査時にもセトウチサンショウウオの成体や卵囊が確認されたため、同様に移植作業を実施した。
- 移植数量は、卵囊17対、成体26個体



〈卵塊の確認位置及び環境〉



〈確認された卵囊〉



〈移植先、過年度確認地点〉

事後監視調査結果(工事中)について

環境調査項目・頻度など (1/2)

調査内容 環境要素	調査項目	調査期間及び調査頻度	調査地点
大気汚染	建設機械の稼働及び工事用車両の運行に伴う 粉じん(降下ばいじん) 、風向、風速	工事箇所の工事内容を考慮して、建設機械の稼働及び工事用車両の運行に係る 環境影響が最大となる時期(3か月間連続)	工事箇所の敷地境界にて実施
水質汚濁	工事区域(土工事、橋脚工事)から発生する SS、pH、濁度、重金属類(カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀)	工事期間中、 季節毎(3か月毎) に 晴天時1回、雨天時1回 実施 重金属類は晴天時に実施	工事を行う流域の下流に当たる地点及び近傍のため池
騒音	建設機械の稼働及び工事用車両の運行に伴う騒音〔騒音レベルの90%レンジ上端値(L_{A5})及び最大値(L_{Amax})、等価騒音レベル(L_{Aeq})〕	工事箇所の工事内容を考慮して、建設機械の稼働及び工事用車両の運行に係る 環境影響が最大となる時期[1日調査(8~18時)を7箇所計24回]	工事箇所の敷地境界にて実施
振動	建設機械の稼働及び工事用車両の運行に伴う振動〔振動レベルの最大値(L_{max})及び振動レベルの80%レンジ上端値(L_{10})〕	同上	同上

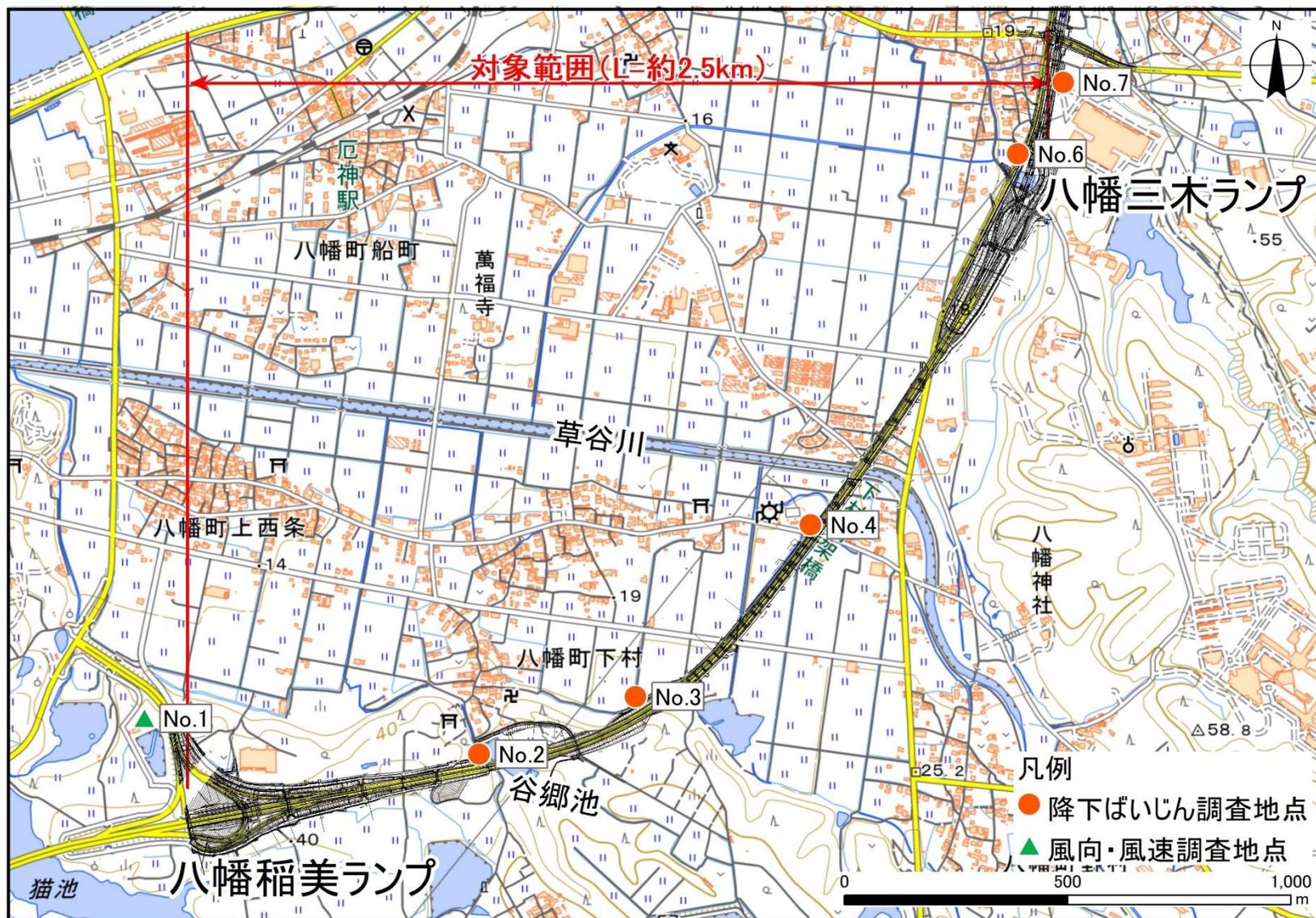
環境調査項目・頻度など (2/2)

調査内容 環境要素	調査項目	調査期間及び調査頻度	調査地点
植 物	工事中のモニタリング調査 ・貴重な植物及び植物群落の 保全対策内容及びその効果 の確認	最も把握できる時期(各貴重な植物の 開花時期等同定可能な時期等とする) を含めて、 年3回(春季、夏季、秋季)	計画路 線周辺
動 物	工事中のモニタリング調査 ・貴重な動物の保全対策内容 及びその効果の確認	最も把握できる時期(各貴重な動物の 繁殖期等の重要な時期)を含めて、 鳥 類は年3回(夏季、秋季、冬季)、爬虫 類・両生類は年4回(初夏季、夏季、秋 季、早春季)、昆虫類は年3回(春季、 初夏季、秋季)、魚類は年2回(夏季、 秋季)、底生動物は年3回(春季、夏季、 冬季)	計画路 線周辺

施設調査項目

調査内容 環境要素	調査項目
廃棄物	・伐採樹木、建設発生土(掘削土砂)、アスファルト廃材の量と処理方法 ・環境保全措置の実施状況
文化財	環境保全措置の実施状況

降下ばいじんの調査位置

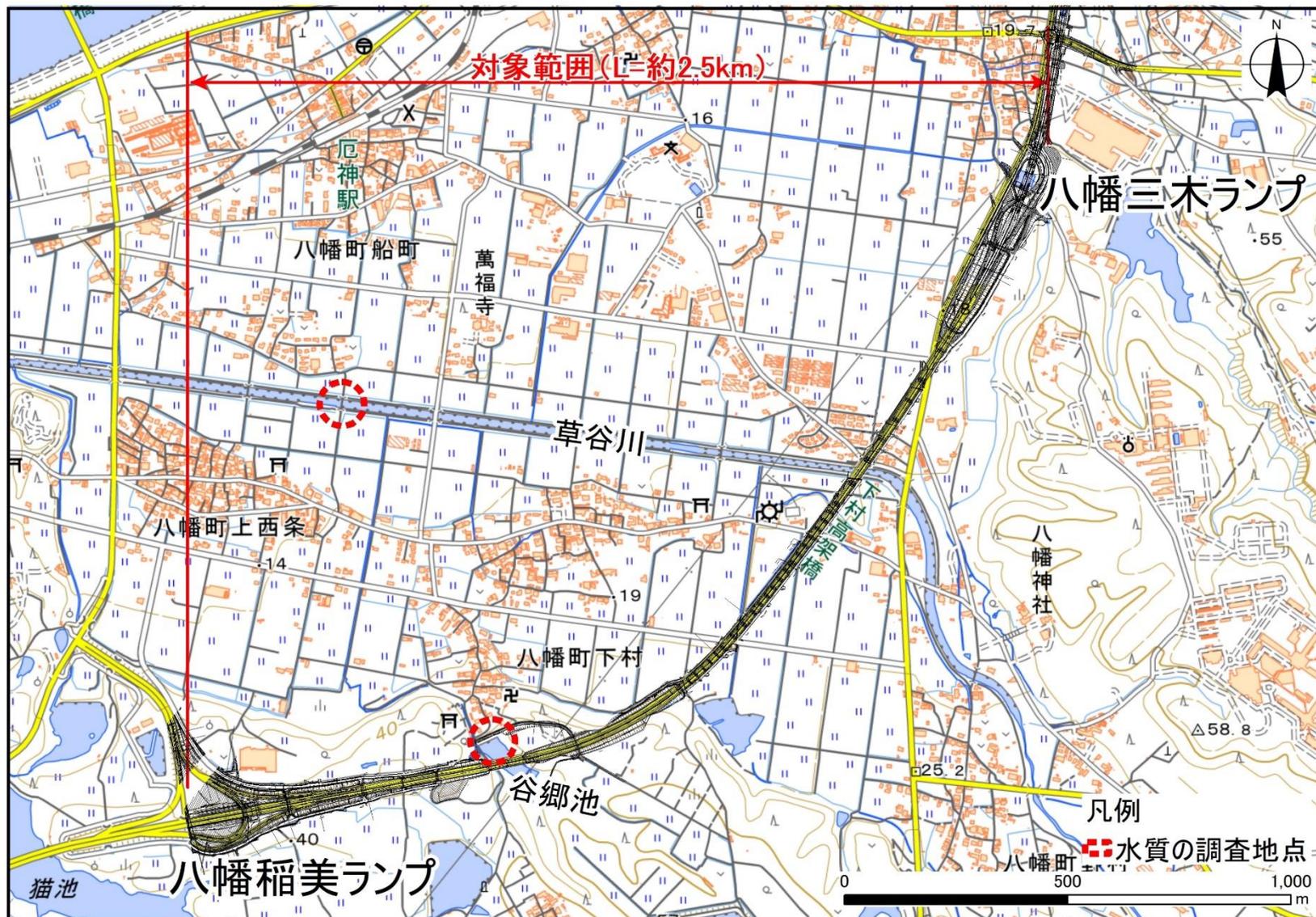


工事中の調査結果(降下ばいじん)

調査地点	調査期間		降下ばいじん量(t/km ² /月)	
			合計	環境監視目標
No.2	1ヶ月目	令和4年12月8日～令和5年1月6日	1.49	10以下
	2ヶ月目	令和5年1月6日～2月7日	3.82	
	3ヶ月目	令和5年2月7日～3月10日	1.02	
No.3	1ヶ月目	令和4年8月30日～9月30日	2.47	
	2ヶ月目	令和4年9月30日～10月31日	1.40	
	3ヶ月目	令和4年10月31日～11月30日	3.68	
No.4	1ヶ月目	令和5年1月6日～2月7日	1.29	
	2ヶ月目	令和5年2月7日～3月10日	1.76	
	3ヶ月目	令和5年3月10日～4月7日	2.65	
No.6	1ヶ月目	令和4年12月8日～令和5年1月6日	2.68	
	2ヶ月目	令和5年1月6日～2月7日	6.81	
	3ヶ月目	令和5年2月7日～3月10日	7.45	
No.7	1ヶ月目	令和4年7月20日～8月19日	1.31	
	2ヶ月目	令和4年8月19日～9月20日	2.60	
	3ヶ月目	令和4年9月20日～10月20日	0.64	

工事中の環境監視目標を満足している。

水質汚濁の調査位置



工事中の調査結果(水質汚濁・晴天時)

調査箇所・調査時期		SS (mg/L)	pH	濁度 (度)	重金属類 (mg/L)					
					カドミウム (Cd)	鉛 (Pb)	六価クロム (Cr ⁶⁺)	砒素(As)	総水銀 (T-Hg)	
工事中の環境監視目標		2~16	6.5以上 8.5以下	3~9	0.003 以下	0.01 以下	0.05 以下	0.01 以下	0.0005 以下	
草谷川	春季	令和4年5月25日	4	7.1	4	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	夏季	令和4年7月11日	10	7.7	4	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	秋季	令和4年10月20日	6	7.2	2	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	冬季	令和5年1月26日	1	7.1	2	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	工事中の環境監視目標	1~12	6.5以上 8.5以下	3~16	0.003 以下	0.01 以下	0.05 以下	0.01 以下	0.0005 以下	
谷郷池	春季	令和4年5月25日	7	6.9	8	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	夏季	令和4年7月11日	4	7.9	4	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	秋季	令和4年10月20日	16	8.1	14	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	冬季	令和5年1月26日	3	7.1	7	0.0003未満	0.001未満	0.02未満	0.001未満	0.0005未満
	工事中の環境監視目標	1~12	6.5以上 8.5以下	3~16	0.003 以下	0.01 以下	0.05 以下	0.01 以下	0.0005 以下	

※ は工事中の環境監視目標を超過した値であることを示す

草谷川: 工事中の環境監視目標を満足している。

谷郷池: 秋季のSSを除いて、工事中の環境監視目標を満足している。秋季のSSは、水位低下(管理)を始めた時期で北風が強い日もあったことから、底泥が巻き上がったためと考えられる。なお、谷郷池は工事前でも濁ったことがあり、今回の濁り発生に関して、周辺住民から苦情はなかった。

工事中の調査結果(水質汚濁)



〈春季晴天時 令和4年5月25日〉



〈夏季晴天時 令和4年7月11日〉



〈秋季晴天時 令和4年10月20日〉



〈冬季晴天時 令和5年1月26日〉

工事中の調査結果(騒音・振動)

区分	調査地点	調査時期		騒音レベルの90%レンジ上端値(L _{A5})		振動レベルの80%レンジ上端値(L ₁₀)	
				1時間の最大値 (dB)	工事中の 環境監視目標(dB)	1時間の最大値 (dB)	工事中の 環境監視目標(dB)
工事中調査	№1	1回目	令和5年1月27日	62	85以下	30	75以下
		2回目	令和5年2月21日	59		28	
		3回目	令和5年3月17日	59		27	
	№2	1回目	令和4年6月13日	64		25	
		2回目	令和4年7月20日	66		36	
		3回目	令和4年8月30日	63		<25	
		4回目	令和4年12月13日	54		28	
		5回目	令和5年1月27日	52		25	
		6回目	令和5年2月21日	58		27	
	№3	1回目	令和4年6月13日	78		39	
		2回目	令和4年8月30日	61		34	
		3回目	令和5年1月27日	56		<25	
	№4	1回目	令和5年1月27日	58		32	
		2回目	令和5年2月21日	60		33	
		3回目	令和5年3月17日	72		48	
	№5	1回目	令和4年7月20日	61		35	
		2回目	令和5年1月26日	76		39	
		3回目	令和5年2月21日	64		40	
	№6	1回目	令和4年12月13日	83		42	
		2回目	令和5年1月26日	74		37	
		3回目	令和5年2月22日	75		37	
№7	1回目	令和4年8月30日	72	41			
	2回目	令和5年2月22日	74	50			
	3回目	令和5年3月16日	70	38			

工事中の環境監視目標を満足している。

工事中の調査結果(廃棄物)

伐採木、アスファルト廃材及びコンクリート廃材は、加工及び破碎等の処理を加え、適切に再利用した。建設発生土（掘削土砂）は、本事業の盛土材などに使用した。

区分	建設発生 (m ³)	伐採樹木 (t)	アスファルト廃材 (m ³)	コンクリート廃材 (m ³)
八幡稻美ランプ～ 八幡三木ランプ	12,500	9	110	22
八幡三木ランプ	0	3	57	11
処理方法	東播磨道工事内 で流用	チップ加工し、燃 料・製紙原料など として利用	破碎し、再生アス ファルト・路盤材等 として利用	破碎し、再生砕石 として利用

廃棄物は適切に処分した

工事中の調査結果(文化財)

皿辻遺跡、片山遺跡、宗佐遺跡、宗佐南遺跡において、平成29年度から令和元年度にかけて兵庫県教育委員会による発掘調査が実施された。

今年度、新たな発掘調査は実施されていない。

調査箇所	建設予定地	調査年度	時代	遺構
皿辻遺跡	八幡稲美ランプ東側	H29	江戸時代末～近代初頭	陶磁器類等
片山遺跡	谷郷池北東側	H29	弥生時代中期、中世～近世	溝・土坑等
		H30	弥生時代末期～古墳時代初頭	竪穴住居跡
			平安時代後期	掘立柱建物跡及び土杭
宗佐遺跡	八幡三木ランプ	H29	奈良時代～平安時代(上層)	遺物等
			弥生時代～古墳時代(下層)	遺構等
		H30	弥生時代末期～古墳時代初頭	竪穴住居跡等
			平安時代後期	自然流路等
		H31/R元	中世	柱穴群及び自然流路
			平安時代後期～中世	掘立柱建物跡等
宗佐南遺跡	八幡三木ランプ	H30	平安時代～鎌倉時代(上層)	柱穴群等
			平安時代～鎌倉時代(下層)	遺構

文化財の保全と継承を図った

工事中の調査結果(貴重な植物)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で6種確認。
- アセス時の確認種で、工事中に確認されていない種は、コイヌガラシ、ガガブタ、コシンジュガヤの3種。
- 工事中に確認された14種のうち、令和4年度は4種が未確認。もともと確認地点数・個体数が少なかったことに加え、ほ場整備や堤体除草の影響が考えられる。

※南工区または道路工事による改変対象ではないため池で確認された種を除外して集計

No.	アセス時 H8-10	工事前 H28-29	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 種数	確認種
1	●	●	●	●	1種	ニオイタデ
2	●		●		2種	アゼオトギリ(1箇所2個体)、ゴキヅル(1箇所8個体)
3	●				3種 10種	ナガバノウナギツカミ、サデクサ、オニバス、コイヌガラシ、タチモ、ガガブタ、オギノツメ、ノタヌキモ、イヌタヌキモ、フサタヌキモ、オオトリゲモ、ウキシバ、コシンジュガヤ 【白字は、アセス時には南工区で確認されたと考えられる種】
4		●	●	●	7種	ヒメミズワラビ、タカトウダイ、タチカモメヅル、ミゾコウジュ、カワヂシャ、ナガエミクリ、ムヨウラン属
5			●	●	2種	ミズニラ、センリョウ
6			●		2種	ミズマツバ(1箇所20個体)、イヌセンブリ(1箇所1個体)

※カッコ内の情報は、これまでの調査で確認された調査回における最大個体数

※表内のH8～R4は基本的には調査年度、H29は工事前が6月まで、工事中が7月以降

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

工事中の調査結果(貴重な植物群落)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で2群落確認。
- アセス時の確認確認で、工事中に確認されていない群落は、ヒメガマ・マコモ群落。本群落は、工事前(H28)時点でヨシ群落に置き換わる。
- 工事中に確認された3群落は、令和4年度はいずれも確認。
- 群落の位置、規模等に大きな変化は認められない。

No.	アセス時 H8	工事前 H28	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 群落数	群落名
1	●	●	●	●	1群落	ツルヨシ群集
2	●				1群落	ヒメガマ・マコモ群落
3		●	●	●	1群落	ヨシ群落
4			●	●	1群落	オギ群集

※表内のH8～R4は調査年度

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

工事中の調査結果(貴重な鳥類)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で33種確認。
- アセス時の確認種で、工事中に確認されていない種は14種。
- 工事中に確認された28種のうち、令和4年度は10種が未確認。もともと確認例数が少なかったことに加え、渡り鳥で調査時期が合わなかったことや、利用環境である河原が貧弱なことが考えられる。

No.	アセス時 H7-8	工事前 H28-29	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 種数	確認種
1	●	●	●	●	10種	チュウサギ、ケリ、タシギ、ミサゴ、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、ルリビタキ、ノビタキ、アオジ
2	●	●	●		4種	イソシギ(3例)、ハヤブサ(2例)、オオヨシキリ(4例)、キビタキ(3例)
3	●		●	●	3種	ヒクイナ、タマシギ、オオタカ
4	●		●		1種	オオルリ(1例)
5	●			●	1種	ハチクマ
6	●	●			2種	イカルチドリ、ヤマシギ
7	●				12種	ヒクイ、ササゴイ、クイナ、ヨタカ、アオアシシギ、ハマシギ、コアジサシ、サシバ、オオアカゲラ、ツリスガラ、メボソムシクイ、コムクドリ
8		●	●	●	1種	オシドリ
9		●			2種	トモエガモ、コチョウゲンボウ
10			●	●	2種	オオムシクイ、コサメビタキ
11			●		5種	マガン(1例)、コウノトリ(31例)、ズグロカモメ(1例)、チュウヒ(1例)、ホオアカ(1例)
12				●	1種	アカゲラ

※カッコ内の情報は、これまでの調査で確認された調査回における最大例数
 ※表内のH7～R4は基本的には調査年度、H29は工事前が6月まで、工事中が7月以降

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

工事中の調査結果(爬虫類・両生類)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で4種確認。
- アセス時の確認種は、すべて工事中に確認。
- 工事中に確認された6種のうち、令和4年度は3種が未確認。ヒバカリ及びニホンイシガメは生息数がもともと少なく、セトウチサンショウウオは過年度確認地点が干上がっていたためと考えられる。
- セトウチサンショウウオは、計画路線北側(アセス対象区域外)で確認。

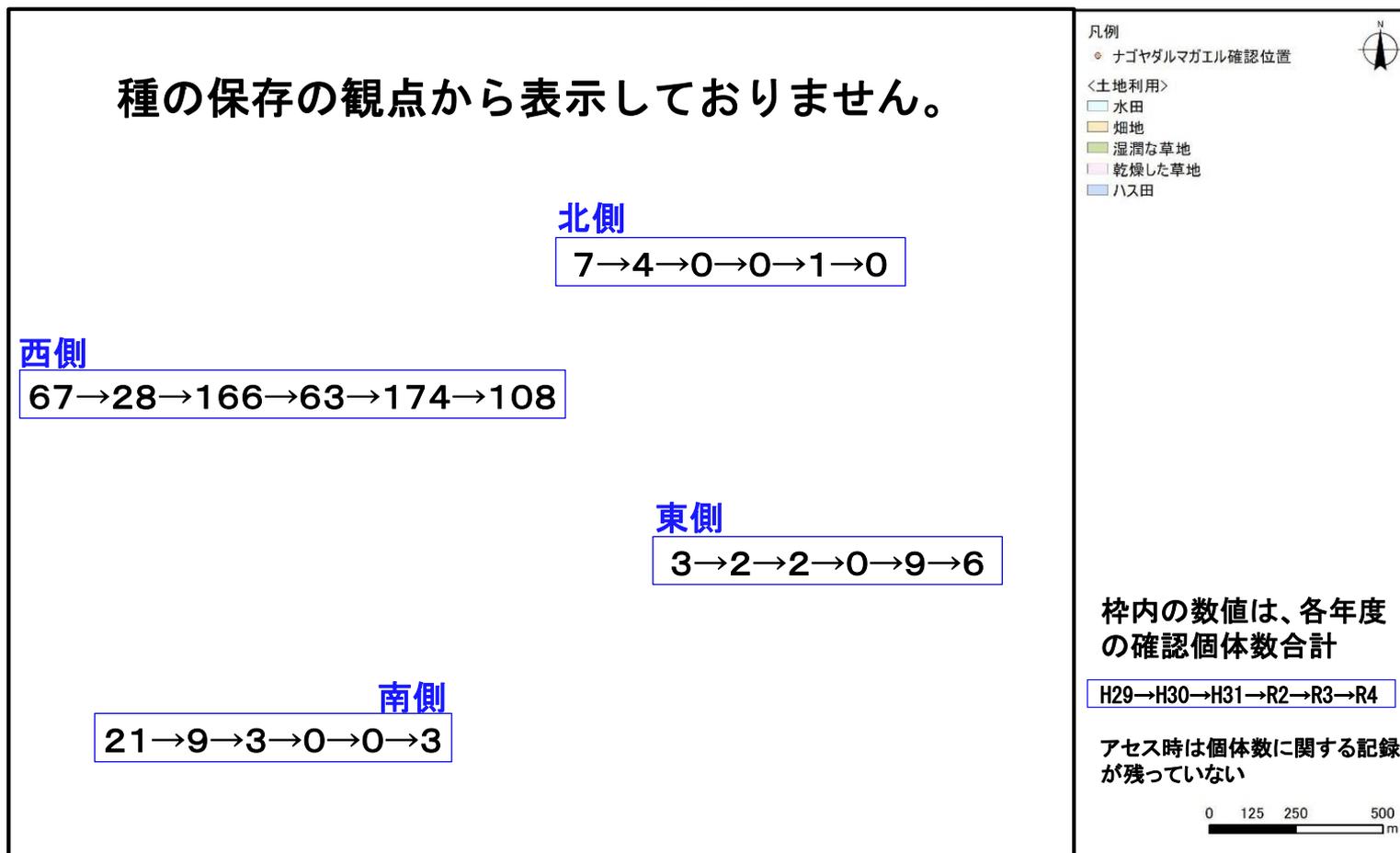
No.	アセス時 H7-8	工事前 H28-29	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 種数	確認種
1	●	●	●	●	2種	トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル
2	●	●	●		1種	ヒバカリ(2個体)
3	●		●		1種	セトウチサンショウウオ(卵囊6対・幼生多数・成体3個体)
4			●		1種	ニホンイシガメ(2個体)
5				●	1種	ニホンスッポン

※カッコ内の情報は、これまでの調査で確認された調査回における最大例数
 ※表内のH7~R4は基本的には調査年度、H29は工事前が6月まで、工事中が7月以降

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

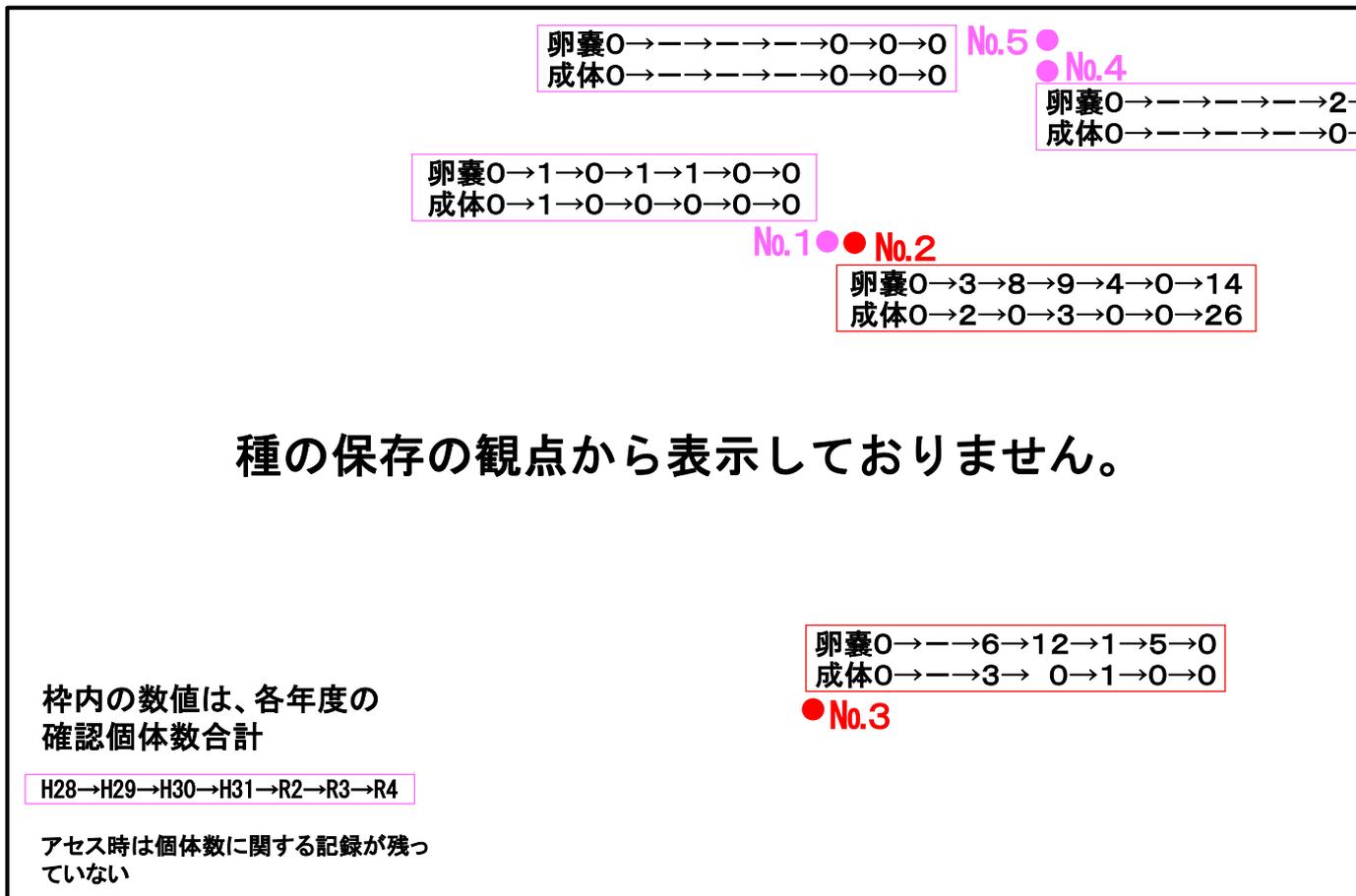
工事中の調査結果(ナゴヤダルマガエル)

- ナゴヤダルマガエルは、平成29年度以降、毎年度確認。
- 路線の西側と東側では、継続して確認されている。
- 路線の南側では、圃場整備完成後の今年度に再確認。
- 路線の北側は、工事前から少なく、最近もほとんど確認されていない。



工事中の調査結果(セトウチサンショウウオ)

- 確認年度の多い地点は、計画路線北側(アセス対象区域外)のNo.2と路線外のNo.3。
- No.2地点は、令和4年度、工事現場内の水たまり等で成体26個体、卵囊17対を確認したため、移植を実施。
- No.3地点は、令和4年度、水路(側溝)の水が干上がっており未確認。



工事中の調査結果(昆虫類)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で11種確認。
- アセス時の確認種で、工事前に確認されていない種は5種。
- 工事中に確認された19種のうち、令和4年度は9種が未確認。もともと確認例数が少なかったことに加え、ほ場整備や除草の影響、松枯れの進行、生息環境であるヨシ原が貧弱であることが考えられる。

No.	アセス時 H7-8	工事前 H28-29	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 種数	確認種
1	●	●	●	●	1種	カトリヤンマ
2	●		●	●	3種	オオキトンボ、コガムシ、ヤマトアシナガバチ
3	●		●		2種	アキアカネ(5個体)、ヘイケボタル(1個体)
4	●				5種	ムスジイトトンボ、マルヒラタガムシ、シジミガムシ、モンズズメバチ、ヤツシロハマダラカ
5		●	●	●	2種	ナニワトンボ、ヒゲシロスズ
6		●	●		3種	コバネササキリ(8個体)、ジュウクホシテントウ(5個体)、ジュウサンホシテントウ(2個体)
7			●	●	4種	ヒメアカネ、シロヘリツチカメムシ、コオイムシ、シルビアシジミ
8			●		4種	スズムシ(1個体)、ハルゼミ(1個体)、ウラギンスジヒョウモン(11個体)、アオスジベッコウ(1個体)

※カッコ内の情報は、これまでの調査で確認された調査回における最大例数
 ※表内のH7～R4は基本的には調査年度、H29は工事前に6月まで、工事中が7月以降

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

工事中の調査結果(魚類)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で2種確認。
- アセス時の確認種で、工事中に確認されていない種は、トウヨシノボリの1種。分類が細分される前で、今はシマヒレヨシノボリと考えられる。
- 工事中に確認された5種のうち、令和4年度はニホンウナギが未確認。生息数がかつとも少ないためと考えられる。

No.	アセス時 H7-8	工事前 H28-29	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 種数	確認種
1	●	●	●	●	1種	ドジョウ
2	●				1種	トウヨシノボリ
3		●	●	●	3種	チュウガタスジシマドジョウ、ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリ
4			●		1種	ニホンウナギ(1例)

※カッコ内の情報は、これまでの調査で確認された調査回における最大例数
※表内のH7～R4は基本的には調査年度、H29は工事前が6月まで、工事中が7月以降

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

工事中の調査結果(底生動物)

- アセス時は南工区と北工区が調査対象。アセス時の調査で6種確認。
- アセス時の確認種で、工事中に確認されていない種は、アオヤンマ、タベサナエ、オグマサナエの3種。アオヤンマは偶発的な確認か生息密度が低いため、タベサナエ及びオグマサナエは谷郷池の環境が工事前から変化したためと推察。
- 工事中に確認された6種は、令和4年度はいずれも確認。

No.	アセス時 H7-8	工事前 H28-29	工事中 H29-R3	工事中 R4	確認 種数	確認種
1	●	●	●	●	2種	コオイムシ、コガムシ
2	●		●	●	1種	ミズカマキリ
3	●				3種	アオヤンマ、タベサナエ、オグマサナエ
4		●	●	●	1種	オオタニシ
5			●	●	2種	ナガオカモノアラガイ、カトリヤンマ

※表内のH7～R4は基本的には調査年度、H29は工事前が6月まで、工事中が7月以降

工事影響は小さいと考えられ、環境監視目標を満足している

今後の予定

事後監視調査	事後監視調査(供用後) 供用後3年間、事後監視調査を実施する
--------	-----------------------------------